

第四章 土 壤

地殻表面の岩石が崩壊、又は、分解してできた無機質を主成分とし、その上に、動植物が腐敗してできた有機質を含んだものが土壌である。

土壌は主として岩石の風化作用によってでき、これに腐敗作用がくわわってできたものである。土壌ができるまでの岩石を母岩といっているが、この母岩の性質によって、土質や基岩（土壌の下にある岩石）までの深度がことなる。また、その生成場所に定積しているものと、自然に移動しているものがあり、これによっても土質、深度が異なっている。

一 田畑の土壌

1 明神地区

河川の運んできた土砂が堆積してできた沖積層である。すなわち周囲の山の表土が、長い年月の間に低い土地に集まりつもったものである。

土壌の分類

| 直径（耗） | 分 類 |
|-------------|--------|
| 2 以 上 | 礫または角礫 |
| 2 ~ 0.25 | 粗 砂 |
| 0.25 ~ 0.05 | 細 砂 |
| 0.05 ~ 0.01 | 微 砂 |
| 0.01 以 下 | 粘 土 |
| 2 ~ 0.01 | 砂又は細土 |

土壌の分類

| 粘土含有量% | 分 類 |
|-----------|-----|
| 12.5 以 下 | 砂 土 |
| 12.5 ~ 25 | 砂壤土 |
| 25 ~ 37.5 | 壤 土 |
| 37.5 ~ 50 | 埴壤土 |
| 50 以 上 | 埴 土 |

明神地区の土質土性

| 土質 | 土性 | | | | | | 酸度 |
|----------|-----|------|------|------|------|-----|----|
| | 礫 | 粗砂 | 細砂 | 微砂 | 粘土 | 度 | |
| 沖積土 細砂壤土 | 0.5 | 21.9 | 22.0 | 36.0 | 19.6 | 3.3 | |

久万中学校付近の田の土質土性

| 土質 | 土性 | | | | | | 酸度 |
|----------|-----|------|------|------|------|------|----|
| | 礫 | 粗砂 | 細砂 | 微砂 | 粘土 | 度 | |
| 洪積層 細砂壤土 | 5.7 | 18.5 | 18.2 | 37.2 | 20.4 | 4.05 | |

父二峰（露峰）の畑の土質土性

| 土質 | 土性 | | | | | | 酸度 |
|-----------|------|-------|------|-----|-------|-----|----|
| | 礫 | 粗砂 | 細砂 | 微砂 | 粘土 | 度 | |
| 古生層 埴 壤 土 | 49.1 | 15.52 | 6.01 | 7.2 | 22.17 | 2.4 | |

上畑野川の田の土質土性

| 土質 | 土性 | | | | | | 酸度 |
|----------|-----|------|------|------|------|-----|----|
| | 礫 | 粗砂 | 細砂 | 微砂 | 粘土 | 度 | |
| 第三紀層 砂壤土 | 2.1 | 24.8 | 27.8 | 30.5 | 14.8 | 2.1 | |

母岩は、安山岩、礫岩、砂岩、頁岩であり、それに火山灰土がまじってできている。沖積層の細砂壤土が主である。他の地区よりも礫が少ない。しかし、西明神よりも東明神の方が土壌の粒子が大きく、礫も多い。土壌の色は黒褐色で、深度は比較的深い。

2 久万地区

洪水の作用で土砂がかさなりつもってできた地層であり、この地層は洪積世（氷河時代）にできたものである。

全般に、水田の土壌は礫を含む細砂壤土である。さながら火山灰土に砂をまぜたような感じがする。火山灰土を多く含んでいるため黒色

の土壤が多く、特に、上野尻地区がひどい。他の地区よりも酸度も高い。

3 父二峰地区

古生代に堆積した地層で、二名地区では緑色片岩、礫岩、頁岩を主として母岩としているが、露峰、父野川地区では主として黒色片岩を母岩としてできている細砂壤土で、色は、褐色である。畑は一般に礫の多い埴壤土であるが、粘り質が特に多いのは頁岩のためである。

4 畑野川地区

第三紀の時代にできた久万層群及び石鎚層群よりできていて、礫岩、砂岩、凝灰岩を母岩とする細砂壤土で、褐色である。下畑野川の地区には一部沖積層があり、上畑野川よりも礫が少ない。畑は火山灰土が多く、台地になっているところは黒音地であり、嵯峨山付近には橙色音地（イタチ音地）がある。

5 直瀬地区

上直瀬の地域は、一般に沖積層の土壤であり、母岩は礫岩、砂岩、頁岩が主で、それに火山灰土を含んだ暗褐色の細壤土である。また、一部に太古層の礫に富む細壤土もみられる。上直瀬地区の土壤は、比較的肥料の保有度が高く、作物の栽培がしやすい。

下直瀬の地区は、主として緑泥片岩を母岩とした細砂壤土で礫を多く含んでおり、粘土質も多い。直瀬地区は、他の地区よりも火山灰土を多く含んでおり、黒音地、橙色音地が多いが深度はあまり深くない。

二 森林の土壤

久万町の森林土壤は、安山岩、結晶片岩（黒色、緑色）を主として母岩とした褐色森林土壤と、火山灰土からできている音地土壤に大別することができ。

1 褐色森林土壤

久万町の山林の地質は、古第三紀の礫岩、砂岩、新第三紀の斜方輝石安山岩、礫岩、砂岩及び、ジュラ紀の緑泥片岩を基岩とする褐色森林土壤で、それが大半を占めている。

特に二名、上野尻、下畑野川、下直瀬を結ぶ線上は緑泥片岩を基岩としている。埴質壤土、微砂質壤土であり、木の生育に最適である。

久万・父二峰地区の緩斜地には乾性褐色森林土が多く、畑野川・直瀬地区には淡褐色の弱乾性褐色森林土が多い。

2 火山灰土

火山灰土でできた土壤を音地という。黒色の黒音地、橙色のイタチ音

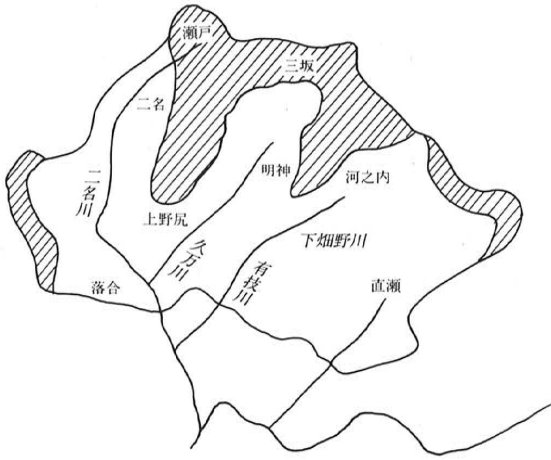


褐色森林土壤に育つスギ

地に色別している。しかし、火山灰土ではないが音地と呼ばれる土壌に草原性黒色土壌がある。これは草の根が腐食してできたもので、草刈り場、カヤ場に多い。久万町の音地は全地区で見られるが、特に二名より直瀬に至る郡境に多い。その大部分は黒音地であるが、畑野川の一部にイタチ音地を見ることができ。

久万町の音地は、斜方輝石安山岩の上に火山灰土がおおっている残積土である。

土性としては、粘りのない、軽い粘土が大部分を占める微砂質壤土が黒音地に多く、イタチ音地には砂質壤土型のものが多い。



火山灰土でおおわれている地域